

■佐藤信淵(元海)
さとうのぶひろ
・・・・・・・・1769 =

経世家。江戸払いの苦難の中、富国強兵の絶対主義的国家構想の書を次々発表、大名老中にまで意見した。

羽後雄勝郡で、源平合戦の雄佐藤継信を始祖とし25代式信以来雄勝一帯で大一族を成し、33代信利以来家学で大成してきた佐藤信季の子に生まれる。

田沼意次老中1772 = 3歳：

少年時代は乱暴者で、寺に入れられるも逃げ出して神社に籠ったなどの逸話があるが、2人の兄が夭折していたため、大事に育てられ、

田沼意次老中1778 = 9歳：

・・・・・・・・1781 = 12歳：この年から3年間、農政学者の父信季に連れられて、蝦夷地に渡り、帰途には、陸奥各地を巡って、気候や物産を実地に学ぶが、
蘭学階梯・1783 = 14歳：藩政を批判して役人に追われることになった父に従って脱藩、
意知刺殺事件1784 = 15歳：足尾銅山に連れられた際に父が客死、遺訓に従って江戸に出、蘭学・本草学を宇田川玄随、儒学を井上仲竜、天文地理を木村泰蔵に学ぶ。

田沼意次失脚1786 = 17歳：
寛政改革始・1787 = 18歳：

母を江戸に呼び寄せ同居。

松平定信引退1793 = 24歳：

おつゞ 正月・1794 = 25歳：笹原氏の女いせと結婚。

写楽・1795 = 26歳：母を失う。悲しみに衰弱したため、門人の計らいで上総国大豆谷村に移り、耕種・樹芸を営んだ後、

江戸に來航・1796 = 27歳：江戸京橋で医業を開く。

青洲麻酔手術1805 = 36歳：

田沼意次老中・1807 = 38歳：*徳島藩に兵学講師として招かれ、海防の策について建議したといわれる。

江門号事件・1808 = 39歳：自ら発明した"自走火船"を公表(西欧に13年先駆ける)。この頃、「鉄砲寫理論」「防海策」「西洋列国史略」なども成ったといわれ、当時の蘭学・国学の成果を吸収し、家学(農政・経済・物産・兵学・天文地理等広範にわたる)を集大成し体系化した。

高田屋拿捕・1812 = 42歳：妻が病死。直後に、間引きや墮胎を招く藩政を激しく批判した封事を藩家老提出し、経済復興策を進言したりするも、黙殺され、

黒住教・1814 = 45歳：

・・・・・・・・1815 = 46歳：平田篤胤に入門。また幕府の神道方吉川源十郎の門人ともなる。

伊能測量終・1816 = 47歳：吉川家の神道講談所建設をめぐる不祥事に関係して、江戸払いを命ぜられ、下総国船橋に退去。

杉田玄白没・1817 = 48歳：この頃、篤胤のもとにしきりに出入りしていたことが、篤胤の日記によって知られる。

水野忠成老中1818 = 49歳：この後、思想的に成熟し、

英船浦賀來航1822 = 53歳：*富国強兵の"垂統国家"の構想にいきついて、「経済要略」に始まり、

江門号事件・1823 = 54歳：「混同秘策」、

異国船打払令1825 = 56歳：「天柱記」「銘造化育論」が成立、「うぶすなの神意」の上に農政学・農本主義的な生産力説を展開し、

日本外史・1827 = 58歳：「国富の増進のため「経済要録」、

江門号事件・1829 = 60歳：「農政本論」等を発表。

鼠小僧磔・1832 = 63歳：*日本橋居住の息子昇庵の病氣見舞いのため宿泊したのを発見され、江戸十里四方追放に処せられ、武州足立郡鹿手袋に退居すると、当村の経済を豊かにすることに努める。

大塩平八郎乱1837 = 68歳：

適塾オープン・1838 = 69歳：宇和島藩主伊達宗紀の求めにより「物価余論」を著す。

蜚社の獄・1839 = 70歳：渡辺華山に「田畯年中行事」を著しておくってまもなく、華山が幕府に捕えられるが、水野忠邦の侍講であった門人の塩谷宕陰にそのことを知らされ、いちはやく江戸を退避したといわれる。

天保改革始・1841 = 72歳：

阿部正弘首座1845 = 76歳：水野忠邦の諮問に答えて「復古法概言」を著す。

孝明天皇・1846 = 77歳：江戸追放を赦免される。「復古法」成る。

晩年、非合理ではあるが先駆的な統一国家構想を抱き、中国への侵略の前提として、樺太占領、韃靼の帰化を説く。

北斎没・1849 = 80歳：*病床につき、

国定忠治磔・1850 = 81歳：没した。

中公シリーズ「日本の名著」、日本人物誌叢書「日本農学者評伝」、「人づくり風土記(秋田)」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」、日本の古典名著、